

うみかぜ広場周辺で見られる野鳥について

溝口雅貴・山口朗子

はじめに

九十九島周辺は西海国立公園に指定され、豊かな自然が残り常緑広葉樹を中心にさまざまな種類の植物が生育している。そのため野鳥の餌となる植物や昆虫も豊富で、多くの種類の野鳥が観察できた。これまで、九十九島ビジターセンターでは九十九島周辺で見られた野鳥の記録を取ってきたが、越冬で飛来する渡り鳥が多く見られる冬の記録が中心で、1年間を通した観察や記録はしていなかった。また、海上での観察記録が多く、陸上での野鳥の記録を定期的には行っておらず、随時見られたものを記録していくという形であった。そこで、2018年度よりうみかぜ広場を中心に定期的に調査を行い、野鳥の出現種について年間を通して記録した。

調査期間・方法

九十九島パールシーリゾート内のうみかぜ広場とその周辺で、2019年4月～2020年3月の間に月に2回（月初めと中旬）行った。チェックシートを作成し、うみかぜ広場を歩きながら、双眼鏡での観察または鳴き声にて判別した野鳥について記録した。また、望遠カメラ（CANON EOS 5D Mark II）で撮影し記録を残した。調査場所のうち設定した2地点（図1）で、レコーダー（OLYMPUS MULTI-TRACK LINEAR PCM RECORDER LS-100）を用いた録音も行った。



図1

結果と考察

今年度は35種の野鳥を確認することができた(表1)。そのうち、渡り区分で見ると留鳥は23種、夏鳥3種、冬鳥8種、漂鳥1種であった。昨年度と同じく冬鳥は、11月頃から現れるようになってきている。時期別による出現種の違いをみると、7-9月は確認できた種類が他に比べて少なく、最も多かったのは1-3月である。1-3月は33種確認しており、今年度見られた種のほとんどが確認できた。合計数でも、7-9月が一番少なく、1-3月が一番多く確認できていたことがわかった(表2)。今年度はコサメビタキ、アカハラ、リュウキュウサンショウクイの新たな種を確認することが出来た。コサメビタキは5月と9月の2回確認できており、渡りの時期と重なるため、うみかぜ広場を渡りの中継地点にしていたと考えられる。アカハラは1月から3月の間確認できており、体の模様や体色の違いから数個体がうみかぜ広場で生息していたと思われる。今年度は、スダジイやアラカシの種子が多く実っており、野鳥たちの餌が豊富にあったことも、昨年度よりも多くの種類を確認できたことに影響していると考えられる。



図2 コサメビタキ (うみかぜ広場 2019. 5. 7)



図3 アカハラ (うみかぜ広場 2020. 2. 19)



図4 リュウキュウサンショウクイ (うみかぜ広場 2020. 2. 19)

表1 うみかぜ広場とその周辺で見られた野鳥

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	渡り区分
1	カワウ													冬鳥
2	マガモ												○	冬鳥
3	カルガモ											○		留鳥
4	ゴイサギ										○		○	留鳥
5	ダイサギ													夏鳥
6	アオサギ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	留鳥
7	ミサゴ										○	○		留鳥
8	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥
9	イソシギ													留鳥
10	キジバト											○	○	留鳥
11	アオバト											○		冬鳥
12	ドバト	○		○		○	○				○	○	○	留鳥
13	ホトトギス				○									夏鳥
14	カワセミ													留鳥
15	アオゲラ													留鳥
16	コゲラ	○		○			○	○	○		○		○	留鳥
17	ツバメ		○	○								○		夏鳥
18	キセキレイ													留鳥
19	ハクセキレイ								○	○	○	○	○	留鳥
20	リュウキュウサンショウクイ											○		留鳥
21	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥
22	モズ								○	○	○			留鳥
23	ジョウビタキ								○	○	○	○	○	冬鳥
24	ルリビタキ								○			○		漂鳥
25	イソヒヨドリ						○	○	○		○	○		留鳥
26	アカハラ										○	○	○	冬鳥
27	シロハラ	○							○	○	○	○	○	冬鳥
28	ツグミ													冬鳥
29	ウグイス	○	○						○	○			○	留鳥
30	コサメビタキ		○				○							夏鳥
31	シジュウカラ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	留鳥
32	ヤマガラ	○	○		○			○	○	○	○	○	○	留鳥
33	エナガ	○	○					○	○	○	○	○	○	留鳥
34	メジロ	○	○				○	○	○	○	○	○	○	留鳥
35	ホオジロ													留鳥
36	アオジ								○			○	○	冬鳥
37	クロジ												○	冬鳥
38	カワラヒワ	○	○										○	留鳥
39	マヒワ													冬鳥
40	イカル	○							○	○	○	○	○	冬鳥
41	スズメ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	留鳥
42	ムクドリ										○			留鳥
43	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥
44	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	留鳥
合	出現種数	16	14	10	9	7	12	10	20	16	22	25	24	34種
計	確認羽数	36	57	31	33	18	24	62	114	73	124	116	128	816

表2 季節ごとの出現種数と確認羽数

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
出現種数	18	14	20	33
確認羽数	124	75	249	368

参考文献

馬田勝義 2002 佐世保バードウォッチングガイド 佐世保渡り鳥研究会
 野添裕一・川久保晶博・遊佐匡子 2006 九十九島周辺で見られた野鳥について 長崎県生物学会誌
 高野伸二 2012 フィールドガイド 日本の野鳥 増補改訂版 公益財団法人日本野鳥の会
 長崎県自然保護協会 1995 長崎県の野鳥 長崎県自然保護協会
 小林桂助 1983 原色日本鳥類図鑑 新訂増補版 株式会社保育社
 ふるさと自然の会 2017 続・させぼ自然ガイドブック ふるさと自然の会